NIE実践報告

1．タイトル：☆自ら調べて考える力を育成するための教材開発および指導方法の工夫

2．学校名

岐阜県揖斐郡池田町立池田中学校

3．実践者名（代表者名）

大久保佳郎

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　307人

6．単元（本時の学習課題）名

関連や比較の視点から考えよう　~　地域との結びつきを強めるフランス ~

7．目標(狙い)

EUが統合するために克服しなければならない条件を、経済格差、民族の違い、外国人労働者の問題などに着目して、その難しさをとらえることができる。

8．評価の視点

EU統合の条件を多面的に考えているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第3章　世界の国々の調査　第3節「関連や比較の視点から考えよう~　地域との結びつきを強めるフランス~　」全8時間の中の7時間目「EU統合の課題」

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①フランスで起こった2005年の暴動の新聞記事（各紙の写真と文章）から、課題をもつ。
・フランスの失業率は10%、250万人にもなり、移民の若者たちの不満が爆発した。
・今までの学習で、EUは一つにまとまろうとしているけれど、どうしてこんな問題が起こるのだろうか。
課題：EUが一つになるにはどんな壁があるだろう。
②課題について考える。
【経済格差】国によって国民所得が大きく違うから、貧しい国の人々は豊かな国に流れてしまう。
【言語の違い】言葉が違えばコミュニケーションができない。言葉の壁は大きい。
【民族の違い】【戦争の歴史】ヨーロッパの国々も戦争がたくさんあったし、仲良くするには時間がかかる。
【外国人労働者】労働者が外国から流れてきているから、フランスの若者の就職ができなくなっている。
③あるフランス人の考えを書いた資料を見る。
一部のフランス人が、外国人労働者を受け入れてきたことに納得しているのは、なぜなのだろう。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

それまでの学習でつかんできたようにEUはまとまろうとしているのに、どうしてフランスで暴動が起こるのだろうか、という課題意識を持つことができた。そして、「EUが一つになるにはどんな壁があるのだろうか」という課題を設定し、課題追究につなげることができた。

12．成果と課題

○新聞をもとにしたリアルタイムな情報収集によって、単元で身につけさせたい認識を見極めることができ、単元構成に反映させることができた。
○また、追究資料として取り上げることで、生徒の学習意欲が喚起され、思考の流れが途切れにくくなり、身につけさせたい認識へとつなげることができた。
●新聞記事を資料として使う場合、記事に使ってある語句の理解などでつまずいたり、文章の中に意図としない内容があったりすると、効率的な追究ができない。教師側で意図を持った加工をする必要ある。